

75th Anniversary 2007



Hominis Dignitati
NANZAN

南山学園創立75周年記念フェスティバル

宗教劇『受難』

2007年11月18日(日)
開演13:30(開場13:00)

愛知県芸術劇場 大ホール

●地下鉄東山線、名城線「栄」駅下車、東へ徒歩2分
(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

入場無料(自由席)

※一部来賓席を除き

脚本：南山大学野外宗教劇

脚本指導：徳留久佳(劇団B級遊撃隊)

演出：神谷尚吾(劇団B級遊撃隊)

監修：佃 典彦(劇団B級遊撃隊)

出演：南山大学野外宗教劇

演奏：南山大学管弦楽団
(指揮：寺本義明)

合唱：南山大学スコラカントールム
南山大学メイルクワイヤーOB
南山大学女声コーラスOG

狂気ともいえる怒りと罵声を浴びながら、一人の男が道を行こうとしている。
かつてこの地は、ローマ帝国の支配の下、苦しみにあった。貧困、病、差別、犯罪、刑罰・・・。
しかし、ある男の登場によって、その地は民衆の希望に包まれる。
我らをローマの支配から救うであろう、救世主“メシア”の到来である、と。彼の名はナザレのイエズス。神の御子。
だがそれも長くは続かない。失望、策略、親しい者の裏切り。彼は最期の苦難の道をゆく前、
弟子達にパンとぶどう酒を与えよう仰せになる、

「神を信じ、そして私をも信じなさい」

今や彼は、荊の冠をかぶり血にまみれ、無残な姿で、十字架の上に佇んでいる。
何故、彼は死ななければならなかったのか。全てを知りながら自らの道を行ったのか。ただ無力に、死んでしまったのだろうか。
いや、彼は全てを 成し遂げたのだ。そして、誰が予想できたであろうか、これから三日目後に起こることを・・・。
イエズスが命をかけて人々に伝えたかったこと。かつて彼とともにいた人間は彼に何を感じ、何を見出したのか。
聖書には決して描かれていない部分にも思いをめぐらしたストーリー。

主催：南山学園 技術協力：劇団B級遊撃隊／株式会社 若尾綜合舞台

《お問合せ先》南山大学 学生課 052-832-3118 E-mail:gakusei-ka@nanzan-u.ac.jp

【南山学園創立75周年記念事業のお知らせ】

●11月 1日(木)10:00～ 記念ミサ(於:南山教会)

●11月 18日(日)10:00～ 記念式典・記念コンサート(於:愛知県芸術劇場コンサートホール)